

授業科目	構音障害Ⅲ (器質性)				
担当者	藤原百合				
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 授業目的・内容

器質性構音障害（口蓋裂）について、基礎的知識、口蓋裂に伴う様々な問題や、チームアプローチについて学ぶ。鼻咽腔閉鎖機能検査や構音検査の実施、治療計画の立て方や構音訓練法について学ぶ。

■ 到達目標

- ・口蓋裂に伴う障害の概要を説明できる。
- ・鼻咽腔閉鎖機能や構音の評価方法を理解し、模擬的に実施できる。
- ・評価に基づいて治療計画を立案し、説明することができる。
- ・特異な構音障害に対する訓練方法を理解し、模擬的に実施できる。

■ 授業計画

- 第1回 器質性構音障害の定義・分類
- 第2回 口蓋裂に関する基礎的知識、関連障害
- 第3回 口蓋裂に伴う発話障害の特徴
- 第4回 発話の聴覚的評価（演習）
- 第5回 口腔顔面の形態・機能の評価
- 第6回 機器を用いた評価（鼻咽腔閉鎖機能、構音機能）
- 第7回 器質的異常に対する外科的、歯科補綴の治療
- 第8回 口蓋裂に対する言語治療：機能訓練
- 第9回 口蓋裂に対する言語治療：構音訓練
- 第10回 構音訓練（演習）
- 第11回 口蓋裂に伴うその他の問題（哺乳・離乳、発達、歯列・咬合、聴力、心理社会的問題）
- 第12回 チーム医療、経年的対応の変化
- 第13回 症例検討：年齢別の対応
- 第14回 症例検討：聴覚的評価から治療方針を考える
- 第15回 まとめ（国家試験過去問）

■ 評価方法

筆記試験 90% 演習 10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

前もって講義資料を配布しますので、教科書の該当箇所を予習、復習してください

■ 教科書

書 名：標準言語聴覚障害学第3版 発声発語障害学
 著者名：藤田郁代監修 城本修 原由紀編集
 出版社：医学書院

■ 参考図書

--

■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。